



市庁舎用地
案まとまる

新候補地は小倉勝山公園

建設費が安く、早く建ち、立地条件よい

市では、合併以来の懸案であった市庁舎建設用地の決定について検討をすすめてきた結果、このほど最終的な候補地として「小倉区勝山公園」を選びました。これは合併のさいに条例で定められた市庁舎の建設予定地「中央緑地」が、地質的に不適当であるという調査報告を得て以来、慎重な検討を重ねてきた結果、この結論を得たもので、なるべく早い機会に市議会にはかることにしています。そこで、これまでの経過や市の方針などを順を追ってご紹介します。

合併で「中央緑地」決定
旧五市が合併するさいに、最も問題となつたのが、新庁舎をどこに建設するかという点で、一時はこの問題だけで、合併ができないうのではないかと、あやふまされるほどでした。

しかし、最終的には小倉、八幡戸畑の三市の接点に位置する中央緑地とする、ということで協議が成立し、新市の条例第一号に「北九州市の事務所は、旧小倉市、旧八幡市および旧戸畑市の境界の旧小倉市地区内中央緑地（津遊園地を含む）のおおむね中央付近に置く」とうたわれました。

以上のような経過から考えても、中央緑地に建設するということは、極めて大切な約束事になっていくわけでした。

そこで、合併早々の38年7月、市議会に「庁舎建設特別委員会」が設けられて、具体案の作成にとりかかり、同時に市当局でも、条例を尊重して39年度に着工、建設費は20億円程度という方針を立てて、39年5月予定地の地質調査を、福山コンサルタンツに依頼しました。

A、B、C案出ず
そして、第一回の調査に基づいて、中央緑地内にA、B、Cの三つの敷地案を作成しました。ところが、その後、同地とその周辺には、石炭の採掘とがあり危険である、ということが、新事実としてでてきました。

坑道と断層で不適当
そこで、市では慎重を期して、市議会特別委員会と協議を重ね、さらに古い鉱区図をたどるとともに、40年8月綿密な調査を九州工業大

このような報告があったとしても、あくまで条例を尊重するたてまえに立つべきだという意見もありましたが、これらの地質的障害をこえて建設をすすめるのであれば、基礎工事費だけでも約十五億円という巨額の費用を要することもはつきりしました。そこでさらに検討を重ねた結果、現在の市の財政能力、その他からして相当無理があるという結論が出てきました。

**中央緑地を「白紙」に
緑地周辺の交渉も不調**
つまり、合併当初からすすめていた「中央緑地」は、いよいよ白紙にもどし、新しい候補地を選定せざるを得ない新たな段階を迎えたわけです。

この間、条例の範囲に含まれる西鉄津遊園地や、それに隣接する国鉄用地も適地と考へて、再三関係先と譲渡の交渉を重ねてきましたが、西鉄、国鉄ともそれぞれに事情があつてことわれ、事実上、条例にそつ候補地の選定は、断念せざるを得なくなりました。

新候補地四つうかぶ
しかし、市庁舎の建設計画は立案されてから、すでにまる五年を迎えようとしています。そのうえ、仮庁舎は十数か所に分散し、ムダな出費もかさみ、市民のみならず、ご迷惑をおかけしています。もはやこれ以上、引き延ばしたり放置したりできない段階にきていることは明らかな情勢です。

そこで、条例にこだわらず、早急に新たな候補地を示すように、この市議会の意向もあつて、これまでの経過や市の現状を考慮合



念には念を入れる趣旨から第三回の調査を、建築工学的権威である建設省建築研究所に、とくに土質工学的な面からさぐってもらいました。その結果、報告（注2）では、市庁舎という特殊性の考慮も加えて、工学的見地から適当でない」と判定してきました。

【昭和38年】
2月10日「北九州市の事務所の位置に関する条例を公布施行」
7月20日「市議会に庁舎建設特別委員会を設置」
8月1日「第一回特別委員会」
9月26日「庁舎建設の調査項目について九州都市学会に諮問」
10月15日「九州都市学会から答申」
11月15日「市長部局に庁舎建設調査委員会を設置」
12月20日「庁舎建設について市長が所信表明①条例を尊重②建設費は20億程度③建設着手は39年度から」
【昭和39年】
5月14日「福山コンサルタンツに基礎調査を委託することと決定」
8月31日「前記調査の結果にもとづき、A・B・C案を作成、特別委へ提出」
【昭和40年】
2月4日「市議会議員改選」
3月30日「新市議会に庁舎建設特別委員会を設置」
4月12日「第一回特別委員会」
6月29日「中央緑地とその周辺に旧石炭鉱区と坑道のありことが判明した旨報告された」
8月24日「九州工大村田教授に中央緑地の地質調査を依頼」
10月5日「村田教授、調査報告書提出（注1参照）」
12月20日「特別委、国鉄用地について折衝の要望出す」
【昭和41年】
1月26日「経過報告と今後の進め方について議員総会の開催を特別委が要請」
2月14日「議員総会の開催」
10月19日「明治百年記念事業と中央緑地の関連を建設省に意向打診」

急ごう新市の基礎固め

市長 谷 伍 平

本市は、合併後五年半を経ましたのに、いまだに仮庁舎のままです。今日に至っていることはご承知のとおりであります。

そのため、仮庁舎は十数か所に分散し、事務処理上、非効率なばかりでなく、年々ムダな出費もかさみ、市民のみなさんには、多大のご不便をおかけしております。

合併のさい、新庁舎をどこ



約束ごととして意識されてきたことは、当然のことです。私も就任以来、この条例を尊重して、新庁舎を一日も早く建設したいと念願し、微力をつくしてまいりました。

しかしながら合併後、新庁舎の建設準備をすすめる過程で、中央緑地は工学的に不適当と判定され、仮りに障害を押し切って建設しようとするれば、市の財政力では負担しきれぬほど多額な工費を要することが明らかになりました。しかし、念には念を入れ、いろいろ検討を加えました結果、やはり条例の地に庁舎を建設することを断念せざるを得なくなったのであります。

に建設するかという問題は一時的な一点だけで、画期的な合併も流れてしまわないか、と、あやふまれましたが、最終的に中央緑地を選定することで、ようやく、妥協が成立したのであります。

こうしたいきさつから、中央緑地に新庁舎を建設することが、いわば至上命令ともいえるべき大切な

その間、条例の範囲に含まれていない西鉄の到達遊園地はもちろん条例の土地に近接する国鉄用地についても、条例尊重の立場から極力譲渡を受けるよう交渉しましたが、いずれも不調に終わりました。

そこで、やむを得ず問題を白紙にもどして、①最も安い経費で②最も早い時期に③最も市役所の機能を発揮しやすい場所に、という角度から、庁舎建設の候補地を探索することにしました。

各区ごとに、市民の意見を聞く会を開き、また参考のため無作為抽出法によって、五千通のアンケートを出して、市民の声を聞きました。あれこれの結果、(1)戸畑区の八幡神社境内を中心とする地域

(2)中央緑地に隣接する金比羅公園の一角 (3)小倉区の旧造兵廠跡 (4)勝山公園の四か所が、最も現実的な候補地として浮び上がってきました。それを、あらゆる角度から比較検討した結果、勝山公園が最適であるという結論に達したのであります。

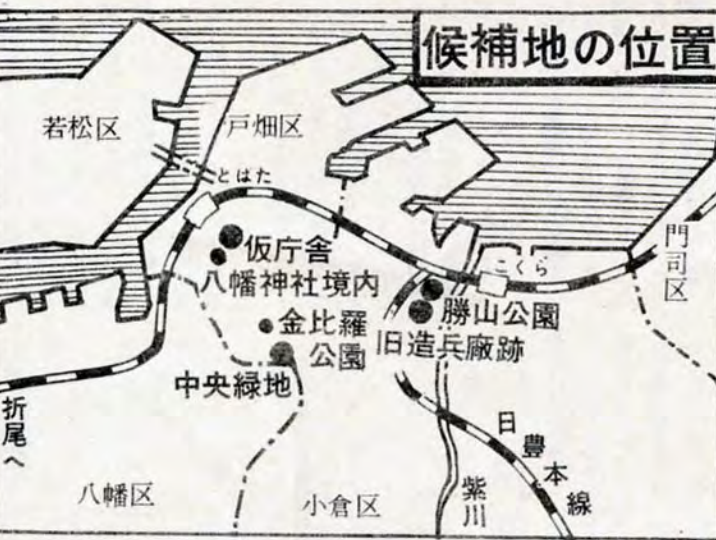
勝山公園は国有地であり、すぐ隣りの旧造兵廠跡を公園代替地として整備すれば、市民のいこいの場所を失うこともなく、すぐにも庁舎建設に着手できるという、他の候補地を大きく引離れた利点があります。

北九州市の発展のすう勢から、将来、遠賀郡その他の隣接地を合併するようになれば市の中心は西に移るといふ考え方もあります。

しかし、庁舎の建設位置は、地理的に正確に中心地でなくとも、行政活動の機能的な中心地であることが必要だと思えます。

北九州市の各区は、町のおいたちも異なり、それぞれの特色をもっています。その特色を生かした未来図を描きながら、各区間の格差をちぢめ、全体として行政水準を高めてゆくことが、私のつとめであると考えます。それに、現在仮庁舎のある戸畑区の場合、市庁舎が他区に建設されれば、区民の空白感は大いものと察せられます。その場合、必要な施設をつくって、その空白感を埋め町の発展を図る最大限の努力をしなければなりません。

いかなる犠牲を払っても、あくまでも条例を尊重せよという主張はスジ論としては、うなずけても現実の市政はそれでは前進しようがありません。どうか市民のみなさんは大局的な判断に立たれて、庁舎建設位置の決定に、ご協力をいただきますと切望する次第であります。



市庁舎アンケートの回答

区分	計		区		別		別		別	
	数	%	数	%	数	%	数	%	数	%
小倉区がよい	1,000	62.3	209	90	446	89	85	54	222	41
戸畑区がよい	199	12.4	5	2	15	3	43	27	25	5
八幡区がよい	194	12.1			2	1	4	3	187	35
若松区がよい	3	0.2					3	2		
門司区がよい	1	0.1			1					
その他	136	8.5	9	4	19	4	14	9	75	14
わからない	71	4.4	9	4	14	3	8	5	30	5
計	1,604	100	232	100	497	100	157	100	539	100

戸畑区八幡神社境内地
まず、第一の八幡神社境内地は戸畑駅から徒歩で約七分、バスの便もよく、地理的に恵まれています。また、神社や地域内の小、中学校の移転に多額の費用と相当の日数を要するばかりでなく、住宅密度の高い同区内では移転先用地を見出すことに、かなりの困難が伴います。それにせつかつく鉄筋校舎を解体することは大きな損失ともなります。戸畑区の人々の間に、この金比羅公園への建設を望む意見が強く出てきているのは、このような事情を理解されたうえでのことと思われまます。

第二の金比羅公園は、条例の中央緑地に隣接して、市有地であるという利点があります。しかし、国鉄の各駅からは遠く、市民の足は戸畑バス一本に頼るといふ、不便なところがあります。それに頂上は海抜八十メートルの高台となっており、その整地費だけでも巨費を要します。さらに公園の代替地として約七万平方メートルの土地を近く

建設促進に理解と協力を
タツチゾーンを解消して、ようやく新市としての一体感も盛り上がる気運をみせてきた、この時期に、懸案の市庁舎を建設して、市のさらに飛躍の礎にしたいものです。近々市議会の審議をおおぐことになりまます、市民のみなさんのご理解と積極的なご協力をぜひともお願いいたします。

第三の旧造兵廠跡は、汽車、電車、バスなど足の便に恵まれ、将来は、国鉄新幹線や九州縦貫自動車道が開通することを考え合わせると、市の行政機能を発揮するための立地条件に恵まれています。しかし、敷地の真中を南北に道路が走り、道路をはさんで細長い土地に二分されているなど、建築上に制約があるという難点があります。

新庁舎建設の予定地として、最終的に「小倉勝山公園」をあげるに至ったまでの経過を、ご紹介しましたが、条例上の候補地を破棄せざるを得なかった事情や、新しい候補地が一つに選ばれていったいきさつなど、ご理解いただけたと思います。

注3 明治百年記念公園
明治百年を記念する国の事業の一環として、大きくまとめた公園を指定し、国が補助金を出して整備するものです。全国で十か所選定された。そのうちの二か所が、本市に決定し、果が管理する中央緑地と、市の金比羅公園とを合わせて公園規模を大きくするための整備事業は42年度から始められています。事業決定されている総面積は六十二・三ヘクタールで、このうち果が二十五・七ヘクタール、市が三六・六ヘクタールを整備します。

代替地、交通便に難点 候補地の状況

【昭和42年】
3月1日 谷市長就任
6月10日 庁舎建設調査班を市総務局内に配置
7月29日 中央緑地の土質工学的調査を建設省建築研究所に委託
10月17日 調査結果報告が建設省から送付を受けた、総合的判断から見て不適地と結論 (注2参照)
11月14日 建設省の報告書、特別委で了承、当初三地点案の不適当が決定
11月30日 特別委で市長報告を行う……
①建設推進のための基本三方針を表明
②条例尊重の見地から、なお周遊地打診を続行
12月27日 特別委で、折衝中の西鉄到達遊園地の譲渡は断られ、なお国鉄用地については折衝続行と報告
【昭和43年】
2月18日 市長と議会関係者上京、国鉄本社に意向打診
4月16日 21日 特別委が国鉄本社に陳情、国鉄本社、将来計画見地から、国鉄用地の譲渡の意思なしを通告
5月6日 特別委で、なお続行中であつた最後の国鉄用地折衝は不調と報告、候補地の早急決定の要望出る
5月13日 市民の意見を聞くための「市庁舎建設を語る会」を戸畑区、若松区で開催。以後、八幡区、小倉区(14日)、門司区(18日)と開く。
5月24日 市庁舎建設の市民アンケートを無作為により五千通発送、6月4日、回答(回収率三六・四%)まとまる
6月15日 庁舎建設特別委で市長、「勝山公園」を表明
6月17日 勝山公園の地質調査のボーリングはじまる
7月2日 勝山公園の「地質」に問題はなく、高層建築にも耐えられる」というボーリング結果を特別委に報告